

タイトル：お竹地蔵

お竹地蔵は、高野山最大の銅像の1つです。1745年5月にこの地蔵を高野山に寄贈した江戸（現在の東京）出身の女性（横山 竹）にちなんで名付けられました。像の土台に彫られた文字によると、亡き夫の魂に祈りを捧げるために、近くの不動坂口女人堂に滞在中、竹の夢の中に菩薩地蔵が現れました。目覚めると、竹は地蔵の作成を依頼し、それを高野山へ寄贈しました。その時からずっと、お竹地蔵はこの場所に置かれています。

地蔵は、サンスクリット語ではクシティガルバ(Ksitigarbha) として知られ、すでに悟りを開いているにもかかわらず、他の苦悩する魂を救うため、慈悲の心でこの世に留まっている、菩薩という慈悲深い存在のことです。地蔵は、旅人、子ども、苦悩する人、さらには死者の魂の庇護者、守護者です。頭の周りに後光のある仏教僧の姿で表現されることがよくあります。左手には宝珠を持ち、右手で、地獄の門を開いて閉じ込められた魂を逃がすための道具を使います。